

ニューヨークから、平和の願いを込めて。

# TOSHIKO AKIYOSHI

コラーレ2002  花のうたげ

## 秋吉敏子ピアノソロ

2002年6月8日[土] 開場18:30 開演19:00

黒部市国際文化センター コラーレ (カーターホール) 全席指定4,000円  
公演当日に限り高校生以下は空席を1,000円でお買い求めいただけます。当日は必ず学生証をご持参ください。

# Piano Solo "Sketch of Japan"

主催：財団法人黒部市国際文化センター  
協賛：チューリップテレビ  
後援：黒部市 黒部市教育委員会

■プレイガイド

[黒部市]  
コラーレ=0765-57-1201  
メルシー=0765-54-2221  
ロイヤルバリー黒部=0765-54-1000

[魚津市]  
新川文化ホール=0765-23-1123  
魚津サンプラザ=0765-24-3030

[入善町]  
コスモホール=0765-72-1105  
コスモ21=0765-74-9100

[宇奈月町]  
宇奈月国際会館=0765-62-2000

[朝日町]  
アスカ=0765-82-2000

[富山市]  
インフォーマット(市民プラザ)=076-491-0110  
(CIC駅前店)=076-444-7013

[高岡市]  
高岡大和=0766-27-1774

■5歳未満のお子様のお入場はご遠慮願います。  
■公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にコラーレにご連絡ください。

Saturday, June 8, 2002 19:00 at COLARE

お問い合わせ・チケット申込み

コラーレ/富山県黒部市三日市20 TEL0765-57-1201 FAX 0765-57-1207 colare@nsknet.or.jp 開館時間10:00~22:30(土/~23:00) 毎週水曜日休館



# THE HISTORY OF JAZZ

Profile of Jazz

Profile of Jazz

おそらく日本人のジャズ・プレイヤーの中で、秋吉敏子は別格である。'56年にバークリー音楽院に留学するために単身渡米、6年後にはニューヨークに移り住み、途中L.A.時代はあるものの、現在に至るまで活動の拠点は常にジャズの本場ニューヨークである。彼女の輝かしい実績や功績は下のプロフィールでも明らかだが、彼女の道は決して楽なものではなかった。いや、むしろジャズへの「いばらの道」と言っても過言ではないだろう。

16歳の時、ピアノを弾きたい一心でダンスホールに職を得たが、その収入は満州から引き揚げたばかりの家族にとって貴重なものであり、音楽のためというよりは家族にとっては生活の糧であった。しかしながら、その時の「ジャズ」との出会いが今日の秋吉敏子を形成している。その後、不安定な収入に加え夫や愛娘との別離など、ミュージシャンとしての基盤自体を揺るがすような幾多の危機を乗り越えながら、彼女の中にあるジャズの炎は消えることなく燃え続けていた。そしてバド・パウエル、チャールス・ミンガスの激励、ルー・タバキンとの愛。この偉大なるジャズメンとの出会いと理解ある夫との結婚が彼女をピアニストとして再認識させ、そしてデューク・エリントンの音楽が彼女のスタンスを確立させた。「心を打つ問題にぶつかったときは、いつもピアノで表現する」という彼女。これまでも水俣やヒロシマを取り上げてきたが、今回の来日演奏では居住地・ニューヨークに突然降りかかった悲劇を乗り越える、力強い「魂の演奏」を聴かせてくれるに違いない。

## 秋吉 敏子 AKIYOSHI Toshiko

旧満州生まれ。

6歳よりピアノをはじめ、厳しいレッスンを受ける。終戦前に帰国した彼女は音楽を愛するあまり、医学の道をすすめる家族の反対を押し切って、占領下の日本、別府のダンスホールで演奏を続けた。その後、テディ・ウィルソンの「スウィート・ロレイン」を耳にして感激し、ジャズピアニストへの道を歩む。

1953年、来日中のオスカー・ピータソンに認められ、ノーマン・グランツのプロデューサーにより日本人女性として初めてアメリカの大手レコード会社のレコーディングをする。

1956年単身渡米、ボストンのバークリー音楽院に入學し、そのかたわらジョージ・ウエインがオーナーの「STORYVILLE」でカルテット演奏を続ける。

1959年、ニューヨークに移り、数多くのジャズクラブで精力的に活動。ボストン時代を含め、マックス・ローチ、マイルス・ディヴィス、デージー・ガレスビー、デューク・エリントン、ポール・チェンバース等との共演は彼女の大きな財産となる。

1972年、夫のルー・タバキンとともにロサンゼルスに移りジャズオーケストラを結成、作曲・編曲に専念する。

1977年、アメリカのダウンビート誌で年間最優秀作品に「LONG YELLOW ROAD」が選ばれる。これは彼女が29歳の時に書き下ろした、アメリカ社会の中でジャズを演奏する黄色人種のアイデンティティを主張した名曲で、この曲により彼女の名声は高まり、1982年にニューヨークへ移る。以後の活躍については説明するまでもなく、日本が生んだ世界に誇る偉大なジャズアーティストとして常に第一線を歩み、また、現代の音楽シーンをリードし続けている。

1986年、日本人として初めて「ニューヨーク市リパティ賞」を受賞し、1999年にはこれも日本人で初めての「国際ジャズ名声の殿堂」入りを果たしたほか、「紫綬褒章」「東京都文化賞」など、その数は枚挙にいとまがない。

バド・パウエルに感銘を受け、チャールス・ミンガスを敬愛し、デューク・エリントンのダイナミズムを継承しながらもアジアにルーツを持つ彼女が創り上げたサウンドや感覚、その芸術性は、現代にして永遠のものとなった。

この近年、オーケストラ活動のかたわら、ピアノプレイヤーとしても、まさに水を得た魚のように活躍。

ジャズ・オーケストラとして、20のアルバム、ソロおよびスモールのグループとして35のアルバムをリリース。

# THE HISTORY OF JAZZ